

A. T. メディア創造学科・3 年次生

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

昔から海外で暮らしてみたいと思っており、長期で海外生活に挑戦するのは、学生のうちにしかできないと考え、留学を目指しました。ドイツにした理由は、ずっとヨーロッパの街並みや建築、デザインに憧れていたこと、Hochschule Düsseldorf はデザイン学部に留学でき、より本格的なデザインの授業を受けられると考えたからです。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

IELTS を受けなければならなかったため、IELTS の模擬問題をたくさん解いたり、単語帳をしたりして勉強をしました。他には、国際課の英会話を利用してスピーキングの練習をしていました。

③ 留学決定から出発までの準備期間にしたこと

◆ 語学学習法

YouTube などヨーロッパ旅行の Vlog の英語で話しているものをよく見ていました。リスニングの勉強にしつつ旅行計画の参考にしていました。ドイツ語も多少は学んで行こうと思ひ、基礎テキストを購入して取り組んでいました。

◆ ビザ申請方法

日本でビザを取得していきました。ビザの申請のために、閉鎖口座の開設証明書や残高証明書が必要で、事前にやるが多かったため、留学が決まったら、できることから早め早めに取り組んでいくのがいいと思います。領事館の予約の空きが全くなく、焦っていましたが、一晩中ホームページを張っていたら突然枠が出現したため予約することができました。ビザをドイツで取得しようとしていた友人は受け取りに時間がかかり、滞在 90 日を超えてからビザを受け取るまでは、ドイツから出ることができなかったため、なるべく日本でビザを取っていくことをお勧めします。私は 1 月の 2 週目ぐらいに領事館に行きましたが、ビザを受け取ったのは 2 月の中旬～下旬あたりでした。

◆ その他

ドイツ留学経験のある知り合いや先輩などに不安な点を質問して、自身が安心して渡航できるように準備していました。

④ 現地到着後

◆ 空港から滞在先までの移動手段、所要時間

S バーンと U バーン（公共交通機関）を利用して、寮まで移動しました。1 時間はかかりました。荷物がかかなり重かったので電車に乗り込むのに苦労しましたが、その都度周りの人が助けてくれてなんとかかなりました。タクシーや Uber に慣れている場合はそちらを利用する方が手軽かと思います。

◆ 現地でのオリエンテーション期間中にしたこと

大学についての説明や生活情報などを聞き、他の留学生との交流イベントなどに参加しました。他の学部の留学生と交流するチャンスはこのくらいしかないので積極的に参加して友人を作るといいと思います。

◆ その他必要な諸手続き方法

口座は wise（送金サービス）を利用していました。最初はドイツの銀行の口座を開設しようと思っていたのですが、友人が wise でも大丈夫ということを知ってくれて、閉鎖口座の送金用に wise を利用してアカウントやデビットカードを作っていたので、そのまま wise を利用することにしました。ドイツの銀行でなくても問題ありませんでした。今後も使えるのでむしろ良かったと思っています。保険は Expatrio のバリューパッケージを通して申し込んでいたので、Expatrio のアプリでオンライン通話をして認証を得て、アクティベートしました。このオンライン通話がスムーズに行かないと相手に通話を切られるので、会話内容をあらかじめネットで調べて準備してから、通話をすることをおすすめします。

⑤ 語学研修期間

ありませんでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

寮からは少し遠いところにありますが、アクセスが良かったです。綺麗なキャンパスで、周りには大きなスーパーがあったのでとても便利でした。

◆ 履修科目について

・ Grundlagen Typografie(SS)

タイポグラフィ基礎です。簡単な本の制作を通してタイポグラフィについて学んだり、この分野のデザイナーの人について学んだりしました。毎週制作物を持ち寄り、1 つ 1 つ、教授がフィードバックやアドバイスを行いました。授業は基本ドイツ語でしたが、私の順番になると英語でお話ししてくださいました。最終課題は授業で学んだことを活かして、内容やバインディングを自分で考え、本を制作しました。

・ Sammlung(SS)

コレクションブックを作るプロジェクトの授業です。何か 1 つのトピックを決め、それに

関するコレクションブックを 1 から制作するというものでした。グループワークで、コレクションの内容決め、資料集め、編集やレイアウトを行いました。最終プレゼン時は、まだ本は完成していない状態で、どのグループも想定した作品をプレゼンしていました。夏休みに入ってから製本を行い、新学期に完成作品を提出しました。

• **GERMAN A1(SS)**

ドイツ語の初級 A1 クラスです。挨拶や数字など基礎的なことをはじめに学び、文法や文章読みなども学んでいきました。テストはペーパーテストとスピーキングを受けました。

• **ERSTIGRUPPE VIER(WS)**

イラストレーションの授業です。新入生向けの授業に混ざって参加しました。さまざまな技法やアプローチで絵を描く授業で、木炭、黒ペン、クレヨン、インクなど多くの道具を利用しました。最終的には、これまでに描いたものをスキャンしてコラージュして、それを大きな画用紙に描いていきました。Photoshop の使用も学びました。

• **4×1(WS)**

コミックスを作る授業です。A4 用紙を 8 つに分けて折った 8 コマのショートストーリーを考え漫画にする授業です。全部で四つの作品を 3 週間ごとに作りました。あらかじめ設定が用意されていて、毎週異なるアプローチで漫画を表現する必要がありました。対話、語り、サイレント、人物を映さない、この四つのアプローチで制作を行い、各 3 週目に作品を発表しました。

• **Type Gym(WS)**

タイポグラフィのシステム開発と音楽や動きを利用したビジュアルアイデンティティの作成をする授業です。最初の 5 週間で各週 50 個以上の文字のデザインをするワークショップを受けました。その後の週からは、デザインした文字を利用して、スケッチブック・ハイライト動画の制作、無名アーティストの曲のタッチポイントをグラフィックデザインで可視化しそれをモーショングラフィックにするなどの表現を行いました。最終日はこれらをスライドにまとめ、1 人ひとり発表をしました。

• **Audio Labor AI(WS)**

電子音楽や音楽生成 AI についての紹介やそれを使った制作の可能性について学びます。これらはプレゼンや映像を見て学びました。また、オーディオスタジオではグループでサウンドを作ったり、音楽を作ったりして、知識を深めました。個人制作としては音楽生成 AI を利用して曲を作る経験をしたり、音楽制作のソフトで、録音した音や初期搭載のサウンドを使って音楽を作ったり、オリジナルで曲を作ったりしました。

• **Lehrplan Wintersemester 2024/25-Englisch B1.2**

英語の B1B2 の授業です。テキストを利用して、スピーキング、ライティング、リーディング、リスニングの全てを練習しました。テストはスピーキングテストとペーパーテストでし

た。

・ **Deutsch als Fremdsprache A2**

A1 から 1 つレベルの上がった A2 の授業では、さらに難しい文法や文章を扱いました。テストは最後から 2 番目の授業でスピーキングテストを、最後の授業でペーパーテストを行いました。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

バドミントンやボルダリングクラブに参加しました。デュッセルドルフの他大学の学生との交流はここで生まれました。6 月に日本デーというイベントに参加し、折り紙の折り方を教えるボランティアをしました。

⑧ **現地での住まいについて**

◆ **正規科目履修期間**

デュッセルドルフの学生組合が運営する寮に入っていました。個室で、シャワー・トイレ・キッチンが部屋についていました。形態はほとんどワンルームマンションと変わりません。4 つも棟があるのに対して、4 台ずつしか洗濯機と乾燥機がないのは非常に困りました。またメンザカードでしか支払えないものもありました。食事は基本的に自炊で、授業日のお昼は大学のメンザで食事をしていました。同女の大学生協の食堂と全く同じ形式です。寮から大学までは、徒歩とトラムで 40 分ほどかかります。

⑨ **長期休暇の過ごし方**

定を立てて少し長めの海外旅行を何度かしました。一度に何カ国も回れるのはヨーロッパ留学の利点です。

⑩ **留学期間中の就職活動の取り組み**

インターンシップには参加しませんでした。希望の業界の選考が留学と被っていたのでエントリーシートの記入から提出までをやっていました。また、キャリア支援課の就活面談なども頻繁に利用していました。

II. 留学の感想

① **留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること**

たくさんの国の人とお話ができたことです。文化の違いも会話の話題に色々なことを知ることができました。共に 1 年留学をした友人とは特に仲良くなり、一緒にお酒を飲んだり、旅行をしたりたくさんの思い出を作ることができて嬉しかったです。最も思い出に残って

いるのは初めての 1 人旅をしたスイスです。何もかもが美しく、一生忘れられません。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

授業がドイツ語で、ほとんどのことがわからず、他との遅れを大きく感じたことです。ドイツ語が話せない上に英語も特にリスニングが苦手なため授業の概要を理解するのに時間がかかりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

お客様ファーストの国ではないので、電車の運転手と乗客が普通に喧嘩していたこと、スーパーや旅行先で質問をしても全く親身ではないことに驚き、文化の違いを感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

ドイツということで英語が第 1 言語ではないため、拙い英語でも受け入れてくれる寛容な場所で、とにかく伝える勇気を持ってました。デザイン学部は設備が整っていてスタジオや印刷所の種類も多く、より専門的な授業を受けることができたところが良かったです。また、卒業してから就活をする仕組みから、全ての学生が将来働きたい分野によって学部を決め、全員が良いスコアのために高い熱量で授業に向き合うので、そういった高い意識を吸収することができた点も良かったです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

メディア創造学科なので、パソコンは学科で配られた MacBook を持って行きました。合せて iPad を持参しましたが、絵を描く必要があるときに役に立ちました。生活面では、海外対応した日本の延長コードを持って行って良かったです。ドイツのコンセントは変換機を使うとグラグラして不安定なのと、私は充電するものが多かったため一度に充電ができて便利でした。旅行中もかなり役に立ちました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

テスト向きの英語力は得られなかったようにも思いますが、伝えようとする力はかなり身についたと思います。システムの異なる教育制度、授業形式を体験できたことで、大学に行くことの意味や自分が今後やりたいことについて、なんとなくの状態だったのが、深く考えられるようになりました。また、色々な国を訪れて、日本と比べて嫌な思いをしたことや危険だと感じることもあり、日本や世界の現状についても興味を持つようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学で得られた経験は、自分の成長につながります。いろいろな国に行ってみたい、たくさんの国の人と出会いたいと思っている人はぜひヨーロッパへの留学に挑戦してみてください。

IV. 将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

メディア業界や海外へ赴くことができる職種を目指しています。

V. 写真



オランダの「ダッチデザインウィーク」を訪れた時の写真です。学生やアーティストの作品が街全体で展示が行われていて、さまざまなジャンルのデザインに触れることができ良い経験になりました。



初めての国外旅行でオランダに行きました。初めて留学先でできた友人との旅行だったので良い思い出です。



1 人旅でスイスに行った時の、マッターホルンの写真です。自然が別格の美しさで何度でも行きたい場所です。



ポツダムにあるサンスーシ宮殿に行きました。本当に綺麗な場所で、ポツダムはドイツで 1 番好きな街です。